

経営比較分析表（令和5年度決算）

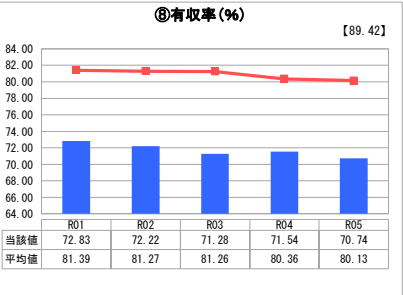
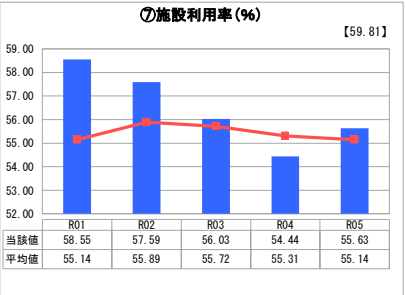
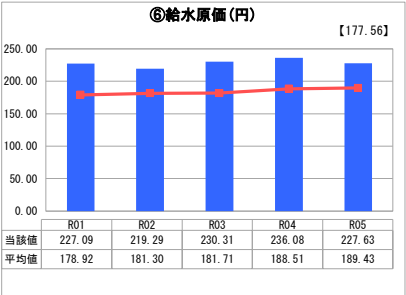
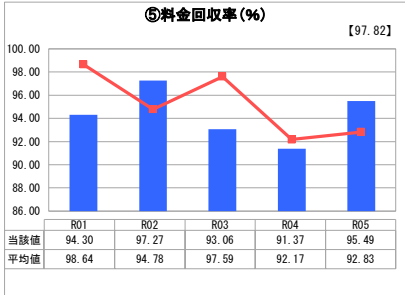
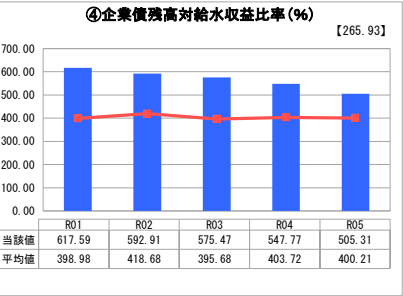
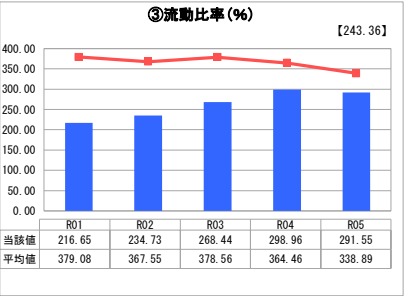
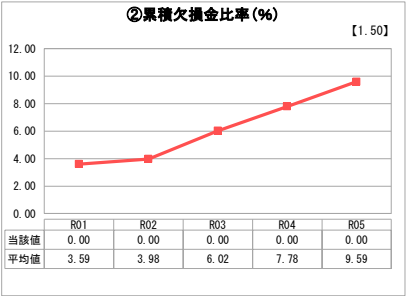
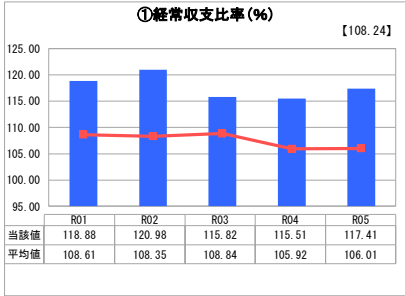
長崎県 対馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	70.74	99.93	4,230	

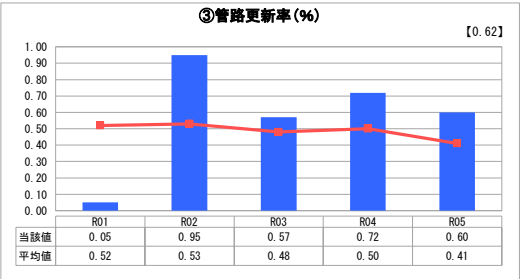
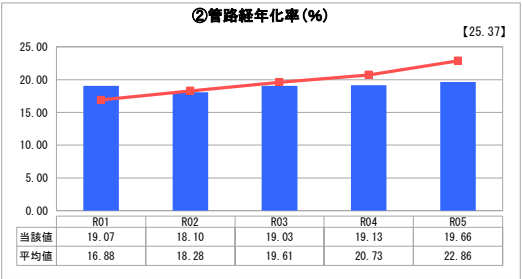
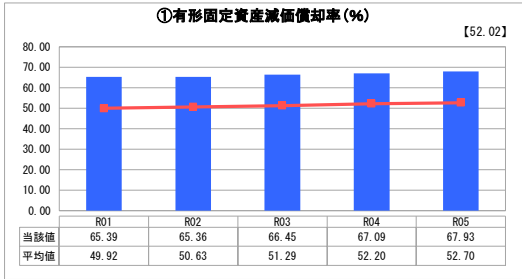
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,821	707.42	39.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
27,395	58.57	467.73

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は類似団体平均値及び100%を上回っており、経営状況は比較的健全な水準である。
③流動比率は類似団体平均値を下回っているものの200%以上を維持しており、短期的な支払能力は確保できている。
④企業債残高対給水収益比率は、平成29年度に簡易水道事業特別会計と経営統合したことにより、類似団体平均値を大幅に上回っているが、年々抑えられてきており、今後も健全経営に向け企業債残高削減に取り組んでいく。
⑤料金回収率は、100%を下回る状況が続いており、更なる経費削減など経営の改善を図る必要がある。
⑥給水原価は、類似団体平均値を大幅に上回っており、更なるコスト改善が必要である。
⑦コロナ禍において低迷していた観光関連業の水需要が増加したことを主な要因として施設利用率は上昇したものの、依然として類似団体平均値を下回る利用率になっていることから、施設更新にあたってはダウンサイジング等を検討する必要がある。
⑧有収率については平均値を大きく下回っており、管路の老朽化による漏水等への速やかな対応を行うなど有収率の向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年経過率について、ともに高い水準となっている。
特に機械設備の老朽化が著しいため、管路更新と合わせ長期的視点に立つて年次的に施設の更新を進めていく必要がある。

全体総括

対馬市水道事業においては、コロナ禍において低迷していた観光関連業の水需要が増加したことを主な要因として料金回収率等に改善の傾向が見られたが、長期的には人口減少を主な要因とした水需要の減少が続いているところである。
一方、施設の老朽化や多様化する市民ニーズに応じた良質なサービスの提供など、水道事業をとりまく課題は山積している状況である。
特に施設の老朽化については、限られた財源の中で対応していくために、施設規模の見直しなども含め計画的・効率的な水道施設の改築・更新や維持管理・運営、更新積立金等の資金確保策を進める必要がある。